

(様式1)

令和4年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和5年2月9日
江別市立上江別小学校

1 今年度の重点目標

「いきいき のびのび」

かんがえる子 やさしい子 げんきな子 なかよくする子・・・教育目標を受けて

育成すべき資質・能力

- 自信 根気 ←学力・体力(知識技能・思考判断表現力)
- おもいやり ←人との関わり・親切(人間性)
- 規範意識 ←挨拶・規律(人間性)

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野 | 評価項目 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | |
|---------|--|------|--|----------|---------|
| | | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 経営方針の重点 | <p>「子ども・保護者・地域から信頼され調和のある学校づくりの推進」</p> <p>道徳教育の充実、地域と連携した総合的な学習や行事の推進、教育活動の情報発信の推進、子どもの学びにつながる働き方改革の推進を通して創意工夫ある学校運営の充実が図られたか。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> ・児童会の行事として、学級でいじめをなくす標語を作成し、児童会のなかよし集会で発表し、集会後は、人権教室でいじめに対する考えを深めた。 ・新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて、体育発表会や学習発表会などの行事等を行うことができた。地域と連携した総合的な学習は、感染状況に合わせて、対面できなくても、工夫して交流を継続できた。 ・働き方改革コアチームを中心として、教職員の意見をまとめ、業務や会議の精選やICTの活用を進めてきた。教員業務支援員が教材作成補助や消毒作業など教員の業務の一部を担うことで勤務時間の短縮の一助となっている。 ・次年度は新型コロナウイルスの感染状況も変わっていくことを踏まえ、地域と連携した総合的な学習も、従来通り計画し、準備をしていきたい。 ・教育活動の情報発信としては、よりタイムリーな発信ができるよう、マチコミコミメールでの配信も積極的に進めていきたい。 | A | A |
| | <p>「子どもの豊かな自己実現を図る教育の推進」</p> <p>支持的風土の学年学級経営の推進、個に応じた特別支援教育・教育相談の充実、安全安心な教育環境整備、令和の教育に対応した教育課程の編成実施を通して子どもの豊かな自己実現を図る教育が推進さ</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> ・支持的風土の学級経営を基盤とし、学年経営の視点もち、学年合同での学習、行事の指導を通して、その学年で身につけさせたい力を育てることができた。また、児童アンケートを活用し、支持的風土の学年学級経営の推進につなげることができた。次年度は、学年学級経営案の反省と分析を活かした方策を互いに学び合える場を設定するなど、全体で | A | A |

| | | | | | |
|--|---|---|--|---|---|
| | れたか。 | | <p>共有する研修の場を設定していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターを中心に、教育相談を充実させ、個に応じた支援体制をとることができた。 ・1人1台タブレット端末が全学年児童に貸与され、AIドリルの活用により、個人の進み具合に合わせた学習ができた。 ・教務部を中心とした総合的な学習の見直し（SDGsの観点）に際し、外部講師による研修を行った。教職員全員で教育課程編成の観点について共通理解を図ることができた。特に「えべつ学」など地域のよさを知り、大切に学習について編成できた。 ・次年度は、教職員全員でより具体的な計画と実践を行ってきたい。 ・登校しぶりや不登校の児童について、担任だけでなく担任外や支援員などが連携し、個別に対応している。保護者との教育相談を行い、その児童に合った対応を考え、登校支援につなげている。また、外部の専門機関との連携により、よりよい支援策を一緒に考えている。教室に入れない児童については別室登校の対応も行っている。新型コロナウイルス禍で登校できない児童にもタブレットを活用し、オンライン授業を行っている。 ・個々の児童に対応しながら、よりよい方法を検討して登校支援を行ってきたい。 | | |
| | <p>「自ら学び考える力と自信を育む教育の推進」 授業力向上と研修の充実、GIGA スクール構想の実現、キャリア教育の充実を通して自主性と主体性を育む教育が推進されたか。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上チームによる各種調査等の分析と方策を明確にし、共通理解をもって授業改善に取り組んだ。校内研究では、教師が一方的に説明するのではなく、児童が主体的に課題を見つけ、友達と対話をする授業づくりを研究した。自分の考えを伝え合い、相手の考えを知ること、相違点に気づき、相手の考えを認め、さらに自分の学びに振り返り、深めようとする児童の姿が見られた。 ・タブレット端末は、10月に低学年にも貸与され、全児童にタブレット端末が貸与されることになった。タブレット端末を活用した教育活動を模索しながらGIGA スクール構想の実現に向け、進めてきた。習熟度に合わせたAIドリルの活用で、児童はAIドリルに興味をもち、主体的に自分の学びを進める姿が見られた。また、教材作成や印刷・丸つけ等の作業の時間の削減になり、働き方改革にもつながった。 ・今後は研究でもめざしていた主体的で対話的な深い学びの実現のために、タブレット端末をいかに活用できるかが次への段階である。 ・キャリアパスポートを活用している。めあてと反省を記録し、学校保管とし、次の学年（中学校も）へ引継ぎ、自らの | A | A |

| | | | | | |
|----------------|--|---|---|---|---|
| | | | <p>成長に気づかせたりこれからの目標を立てるのに役立てたりしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積み上げた記録を大切にして有効に活用していきたい。 ・外部講師の活用による出前授業などは、専門性の高い方のお話により、自分の将来について考えるきっかけとなっている。特に今年度は、縄文時代に学ぶ・世界遺産を活用した次世代育成事業として、学芸員さんから北海道の遺跡から縄文時代を学んだ。 ・今後は、地域の卒業生で活躍している方とつながれるようにアンテナを高く、人材発掘に努め、キャリア教育につなげたい。 | | |
| | <p>「豊かな心と健やかな体を培い、社会性を育む教育の推進」</p> <p>迅速かつ効果的な生徒指導の充実、豊かな心と健康な体を育む教育の充実、規範意識の醸成、自らの身を守る防災・安全教育の充実を通して、心・体・社会性を育めたか。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの避難訓練に加え、今年度は、水害時の避難訓練を計画し、高台の江別一中に速やかに避難する訓練をすることができた。 ・挨拶や礼儀を大切にし、生徒指導に取り組んできた。年間指導事項を明確にし、月ごとに重点を決め、指導と反省をしっかりと行った。地域の見守り隊の方との連携を大切にし、指導事項を共有してきた。毎週金曜日には、交通安全についてのめあてを全児童に提示し指導した。 ・きまりを守ることはよくできている。今後は、きまりのない状況で、よりよい判断ができるよう、考えさせるようにしていきたい。 | A | A |
| テーマ | <p>新型コロナウイルス対策に基づくより良い教育課程の編成・実施・評価・改善の推進（学びの定着と向上）を図ることができたか。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> ・行動基準を感染状況に応じて見直し、感染予防策を講じながら、教育課程を工夫して実施した。 ・学級閉鎖等で失った時数を6時間授業、60分授業や冬休みの登校日設定など、早い段階で計画的に行うことができた。また、新型コロナウイルス禍において、出席停止の児童には、タブレット端末によるオンライン授業を行うことで、学びの保障をすることができた。 ・次年度も道や市が示す感染予防策を講じながら、どの子も取り残さない学習指導を継続していきたい。 | A | A |
| ・落ち着きのあるきれいな学校 | <p>お互いを大切にし生き生きと学び合い高め合う子どもの育成（多様性の認め合い）を図ることができたか。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止策を講じて、人権擁護委員に講師として来校していただき、人権教室を開催できた。6年生は感染拡大のため実施できなかった。 ・児童の個性や能力を伸ばす学級経営として、認め励まし褒める指導に努めた。行事では、仲間と一つの目標に向かい、取り組むことで、協力や励まし、認め合いの大切さを学ぶ機会となっている。日頃の授業では、対話の授業を通して、互いの意見の違いに気づき、違いを認め合い前に進むことの大切さを学ばせている。 ・児童会活動の平和集会では、高学年が低学年に折り鶴を教えた際には、下級生 | A | A |

| | | | | | |
|-----------|---|---|---|---|---|
| | | | へのおもいやりや上級生への尊敬の気持ちが芽生えていた。 ・次年度は人権の花運動が割り当たっている。お世話活動を通して、小さな命も大切にすることで、より一層人権意識を高めるきっかけとしたい。 | | |
| | 夢や目標の実現に向けて最後までやりぬく子どもの育成（小中一貫教育への準備）を図ることができたか。 | A | ・江別第一小、江別第一中学校と三校合同の研修会を4回実施し、研修を深めた。三校の教職員の話し合いにより、小中9年間の育てたい力を明確にし、各教科部会や特別部会において、小中一貫推進の計画と準備を円滑に進めることができた。あいさつ運動、中学校1日体験などできるところから始めている。 ・来年度は具体的な取組を充実させていきたい。保護者への情報発信をよりわかりやすく伝えていきたい。 | A | A |
| 教育課程・学習指導 | 特色ある教育課程の実施 落ち着いたのあるきれいな学校の実現のために学習規律の徹底と、朝読書の取り組み、学級花壇の整備を継続することができたか。 | A | ・上江別小学習スタンダードを定着させることや朝読書を全校で共通に取り組むことにより、児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。 ・学級花壇の整備では、学年ごとに工夫したデザインにし、自分たちの花壇をきれいに維持しようと意欲を高めていた。児童が自主的に水やりなどお世話を行う姿がよく見られた。 ・読書活動では、先生のお勧めの本の紹介や、先生の読み聞かせを行い、児童の興味関心を高めた。図書司書やボランティアの方の力を借りて、活動を深めることができた。また、家読の取組を始め、家庭との連携を図ることができた。 ・今後も、読む力をつけるために、読書月間と合わせ家読の取組を行い、家読がより浸透するように、無理のない範囲で家庭に協力を働きかけたい。 | A | A |
| | 新学習指導要領の確実な実施 外国語活動、ICTやプログラミング教育に関わる研修を充実し、指導力を高めることはできたか。 | B | ・外国語専科の配置やALTの授業により、学習環境は充実している。 ・ICTは全児童にタブレットが貸与され、家庭への持ち帰りを開始している。AIドリルの活用が積極的にされている。教職員のミニ研修で技能を高め合う機運が高まっている。 ・タイピングやプレゼンソフト活用などの内容に取り組んでいる。 ・今後は、教務部を中心にして学年団に働きかけ、プログラミング教育の学習の取組状況を把握し、保護者に丁寧に伝えていきたい。楽しい外国語の授業やタブレットを活用した授業改善などについて、より研修を充実させたい。 | A | A |

| | | | | | |
|--------|---|---|---|---|---|
| 特別支援教育 | <p>特別支援教育の推進と保護者への周知 特別支援教育について、教職員間の共通理解を図る。特別支援 Co を中心として、児童理解・保護者との対話、教育相談に努めたか。</p> | A | <ul style="list-style-type: none"> ・年度始めに特別な支援が必要な児童に対する支援のあり方について共通理解を図り、特別支援教育を推進してきた。 ・校内研修で外部講師から児童理解や具体的な支援の仕方を学ぶ機会を設けた。 ・教育相談に関しては、特別支援 Co を中心にして、随時ケース会議や教育相談を行い、保護者と連携し、児童のよりよい支援につなげることができた。 ・担任外と支援員等で構成する協力指導委員会では児童についての交流をし、1ヶ月ごとの短い期間で行い、実態把握をし、共通理解のもとに指導にあたることができた。 ・必要に応じ、心の教室相談員・養護教諭・SSW 等と連携を図り、保護者をつなぎ、支援の充実につなげることができた。 ・次年度も引き続き、組織的な特別支援教育推進体制を進めていきたい。 | A | A |
| 生徒指導 | <p>規範意識の醸成と基本的生活習慣の醸成 予防的生徒指導の推進、体力づくりの工夫と外遊びの励行などの継続的な取り組みができたか。</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が共通理解を図り、あいさつや礼儀を大切に、きまりを守ることなど、指導にブレや差がないように、その都度、生徒指導部や学年団を中心にして、指導事項を確認することで、予防的な生徒指導につなげることができた。 ・今後も全教職員で予防的な生徒指導に努めていく。 ・体力向上チームを中心に、体力向上策を立て、走力や持久力を高める運動（縄跳び90秒チャレンジ・ランニング3分走）を取り入れ、継続して体力向上に取り組んだ。どさんこ元気アップチャレンジと連動し、短縄跳びの記録会を全校で取り組んだ。記録の上位ランキングや記録を高める運動の紹介などを、児童の目に入る場所に掲示し、意欲につなげることができた。 ・新体力テストの分析から立てた体力向上策についての実施と評価についてまとめ、教職員全体で共通理解を図り、保護者に伝えていきたい。 ・上位の子の表彰などを取り入れ、児童の意欲が高まるような体力向上の取組を工夫していきたい。 | A | A |
| | <p>「安心」「安全」の確立 問題行動の早期発見と早期指導、いじめへの毅然とした対応と指導の推進（いじめ防止基本方針共通理解）、道徳教育の充実等、</p> | B | <ul style="list-style-type: none"> ・年3回のいじめアンケート、担任外、支援員の情報交流、日々の教室訪問、教育相談やケース会議、いじめ対策委員会によって、組織的かつ迅速な対応をすることができた。 ・いじめの積極的認知に努め、早期発 | B | A |

| | | | |
|---------------------|---|--|---|
| | <p>全教職員相互の協力体制のもと指導することができたか。</p> | | <p>見、早期指導につなげた。いじめ対策委員会を定期的開催し、いじめの解消まで確実な指導をとるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめのアンケートでは、いじめはどんなことがあってもゆるされないことだと思う児童が92%に増えた。 ・引き続き、本校の「いじめ防止基本方針」に則り、組織的に指導に当たっていききたい。また、全教職員が協力して、いじめへの毅然とした指導と対応を継続していききたい。 ・情報モラルアンケートでのスマホの使用時間の実態と家庭での使い方について啓発するお便りを配布し、家庭と連携して指導にあたることができた。また、外部講師によるスマホ安全教室により、児童は安全な使い方を学ぶことができた。 ・次年度はPTAと協力しながら、保護者の研修の機会を設け、保護者向けのスマホ安全教室などを開催したい。 |
| <p>保護者・地域住民との連携</p> | <p>地域・家庭との連携と情報の発信 地域や保護者、幼保中との極め細かな連絡・相談・連携と各種通信・HPによる学校の取り組みの情報提供が十分にできたか。</p> | <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保の連携も今年是对面で行い、十分に引継ぎや連携できた。スタートカリキュラム（新1年生入学から1～2か月のカリキュラム）の充実のために、幼稚園と情報交換をすることができた。 ・小中一貫教育の合同研修会では、児童生徒に関して情報交換ができ、よりきめ細かな連携につなげることができた。 ・次年度はさらにスタートカリキュラムの充実を図っていききたい。 ・学校だより・学年だより・学級だよりで児童の様子がより伝わるように心がけ、発信してきた。 ・HPの発信が後半停滞してきたので、役割分担を明確にし、年間計画を立て、定期的な発信に努めていききたい。 ・保護者へのメール配信サービス（マチコミメール）を行い、すべての家庭が登録している。学級閉鎖や不審者情報、新型コロナウイルスに関わる連絡、下校時の安全指導等、タイムリーにお知らせしたい内容を発信している。新1年生にも登録を呼びかけ、100%登録を目指している。 ・次年度は教育活動の情報発信として、HPと合わせマチコミメールでの配信でもより進めていききたい。 | <p>A</p> <p>A</p> |

| | |
|-----------------------|--|
| <p>学校関係者評価委員による意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価のBの項目について、Aの方が妥当ということでBをいただいている ・タブレットの持ち帰りについて、学校から持ち帰る場所は家庭であり、デイサービスで使用するの不可ということ子どもや家庭に周知していただきたい。 ・特別支援教育について、デイサービスなどの事業所も相談したいことがあるので、地域への説明用のおたよりがほしい。 ・スマホ安全教室など、保護者と一緒に関係者も参加したい。 ・新型コロナウイルス禍対応など細かい配慮が感じられ、日々の教職員の奮闘に感謝する。 ・いじめに対する意識向上をお願いしたい。 ・働き方改革を進め、教職員が安心して働ける学校づくりをお願いしたい。 |
|-----------------------|--|

【評点】 A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない